



すべてに「時」がある

予期せぬ出来事(4)

聖書はご存知のように 返し読んだ。

旧約聖書と新約聖書から 旧約聖書は「創世」なる。旧約聖書は一口で言 記「出エジプト記」に えば古代ユダヤ人の歴史 始まり、三十九の書か の書であり、新約聖書はイ らなる。「コヘレトの言葉」は エス・キリストの言行が書 その二つで、全部で十二章、 かれてる。

極めて短編である。

旧約聖書は新約聖書の コヘレトはダビデの子 約三倍の量があり、私はま で、エルサレムの王である。 だ全部を読んだことはな その彼が「人生とは何か」 だけだが、それでもあちこ と悩み苦しむ。「なんと だけに教訓や名言があり、宝 太陽の下、人は労苦する ちの山のような存在だ。 が、すべての労苦が何にな

今回の二十二日間の入 る。一代過ぎればまた一 院生活で読んだのは「コヘレ 代が起り、永遠に耐える トの言葉」だけ。何回も繰り のは大地。日は昇り、日は



子供じみてると笑われるかもしれないが…

言われた。入院 中、長女は西ア フリカのシエラ レオネに学会の ため訪れた。こ の国は十年以 上、内戦が続き、 平均寿命は四十 七歳という。 長寿が幸せと いうのなら、現代 の日本人は間違 いなく幸せとい うことになる。果

さらにコヘレトは言う。

「何」にも時があり、 天の下の出来事はすべて 定められた時がある。生ま れる時、死ぬ時。植える時、 植えたものを抜く時。泣く 時、笑う時。ほめる時、失う 時……人が労苦してみた ところ、何になる。…… くれるのは神。

神はすべてを時宜にかな ぬ入院の時を過ごして、退 院の時に迎えることができ 思う、心を人に与えられる」 た。日常生活に戻ると、もう

コヘレトは最後に「すべ てに耳を傾けて得た結論。 年未、クリスマスモードだ。

「神を畏れ、その戒めを守 れ」これこそ人間のすべて と。 三人の子どもが家を出

人生はいろんな「時」の よく来てくれたが、妻は口 繰り返してあり、それだけ には出さないが寂しかった ではすべてが空しくなる。 に違いない。その「時」を、 それに光を与えてくれるの 希望を持って乗り越えた が神であり、それこそが人 からこそ新しい「時」が来 間にとって最も大切なもの なのだ。

だとコヘレトは悟る。

そうだ、二人だけでも玄

今の日本人は男女とも 間にサンタクロースを、応 平均寿命は八十歳を超え 接間には馬小屋セットを た。私も来年、七十七歳 飾ろう。新しい「時」を迎え 喜寿を迎える。ひと昔前、 ることができたことに感謝 日本人は「人生五十年」と を込めて!!



いつまでも夢を大切にしたいと飾る